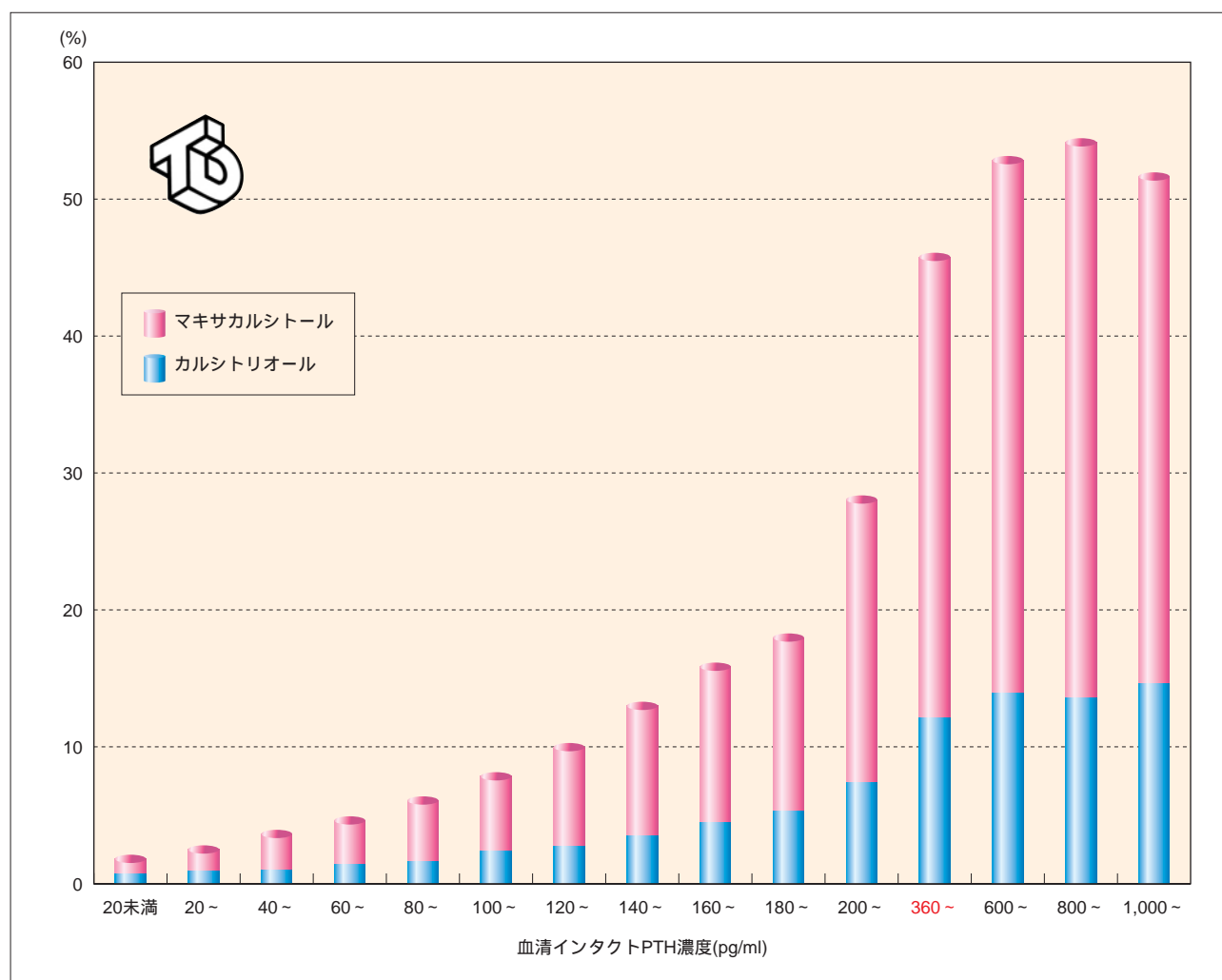


2) ビタミンD製剤の使用状況

(8) 血清インタクトPTH別 静注ビタミンD製剤の使用頻度 (図表36)



	20未満	20~	40~	60~	80~	100~	120~	140~	160~	180~	200~	360~	600~	800~	1,000~
カルシトリオール	86	96	122	156	175	222	266	291	367	381	2,482	1,660	483	206	230
(%)	(0.7)	(0.7)	(1.0)	(1.4)	(1.7)	(2.3)	(2.9)	(3.5)	(4.6)	(5.3)	(7.3)	(12.1)	(13.9)	(13.6)	(14.8)
マキサカルシトール	127	232	301	367	464	516	668	770	886	922	6,968	4,602	1,360	610	570
(%)	(1.0)	(1.7)	(2.5)	(3.2)	(4.4)	(5.5)	(7.2)	(9.3)	(11.1)	(12.8)	(20.6)	(33.7)	(39.1)	(40.3)	(36.8)
その他	9	5	9	6	8	6	10	14	13	11	88	67	23	5	1
(%)	(0.1)	(0.0)	(0.1)	(0.1)	(0.1)	(0.1)	(0.1)	(0.2)	(0.2)	(0.2)	(0.3)	(0.5)	(0.7)	(0.3)	(0.1)
使用していない	12,934	13,656	11,757	10,849	9,866	8,649	8,286	7,113	6,676	5,843	24,173	7,302	1,597	682	743
(%)	(97.9)	(97.3)	(96.1)	(95.0)	(93.5)	(91.6)	(89.3)	(86.3)	(83.8)	(81.3)	(71.4)	(53.4)	(46.0)	(45.1)	(47.9)
不明	41	51	48	46	38	54	49	50	22	33	142	41	11	10	7
(%)	(0.3)	(0.3)	(0.4)	(0.4)	(0.4)	(0.6)	(0.5)	(0.6)	(0.3)	(0.5)	(0.4)	(0.3)	(0.3)	(0.7)	(0.5)

数値下のかっこ内は列方向の合計に対する%です。

解説

血清インタクトPTH濃度と静注ビタミンD製剤の使用状況について検討しました。
経口ビタミンD製剤の使用状況とは対称的に、PTH上昇とともに静注ビタミンD製剤の使用頻度は増加し、血清インタクトPTH 600pg/ml以上では半数以上の症例に投与されていました。